

# 調布市生涯学習振興プラン

## 【概要版】

一人ひとりの学びでつながるぬくもりあるまちを目指して



平成 25 年 3 月

調 布 市

## 調布市の目指す生涯学習支援・振興

調布市生涯学習振興プランでは「一人ひとりの学びでつながるぬくもりあるまちを目指して」を基本理念に定め、それぞれの興味・関心や生活スタイルに応じた学習ができるだけでなく、その成果をまちづくりに生かすことができる環境づくりを目指します。

また、学習の機会や対象は市政の様々な分野に及ぶため、市民の生涯学習支援には部署を超えた全庁的な取組が必要になります。本計画に基づく全庁的かつ体系的な市民の学習支援・振興を通じて、生涯学習社会の実現を目指します。

## 計画の目的

本計画では、「生涯学習の理念」にある市民一人ひとりが自発的に学習を継続でき、学習の成果を生かすことのできる社会、すなわち生涯学習社会の実現のための生涯学習支援・振興を目的とします。

## 計画の範囲

生涯学習は非常に幅の広いものであり、行政を含む多様な機関・施設、企業、団体等が学習支援活動に関わっています。本計画ではそのうち、調布市が行う生涯学習支援（市が直接関わっていない学習機会などの情報提供も含む）を計画の範囲とします。

## 計画の位置づけ

本計画は、「調布市基本構想（平成 25 年度～平成 34 年度）」のまちの将来像である「みんなが笑顔でつながる・ぬくもりと輝きのまち調布」の実現に向け、生涯学習分野の個別計画として策定するものです。

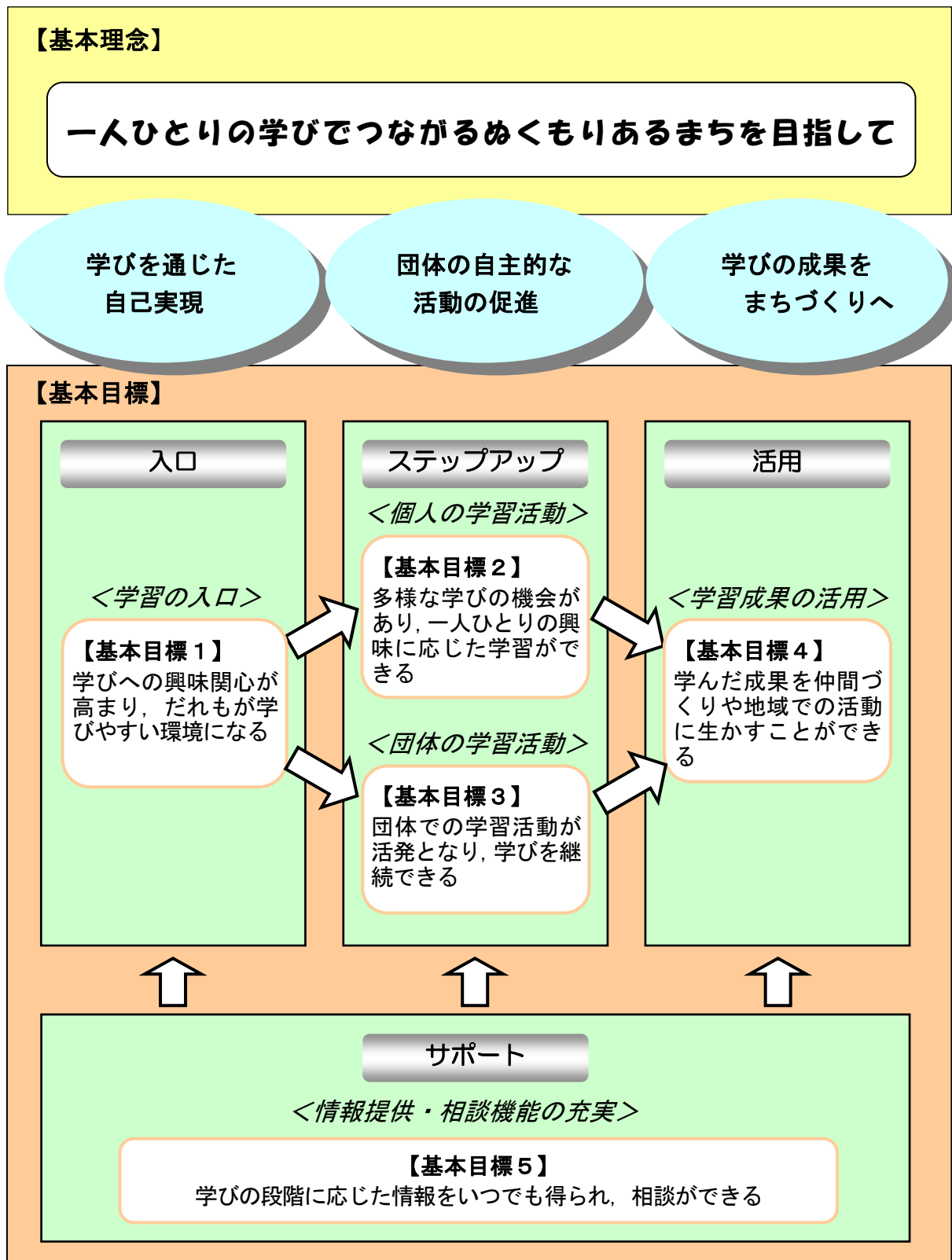
## 計画の期間

本計画の期間は、平成 25（2013）年度から平成 34（2022）年度までの 10 年間とします。

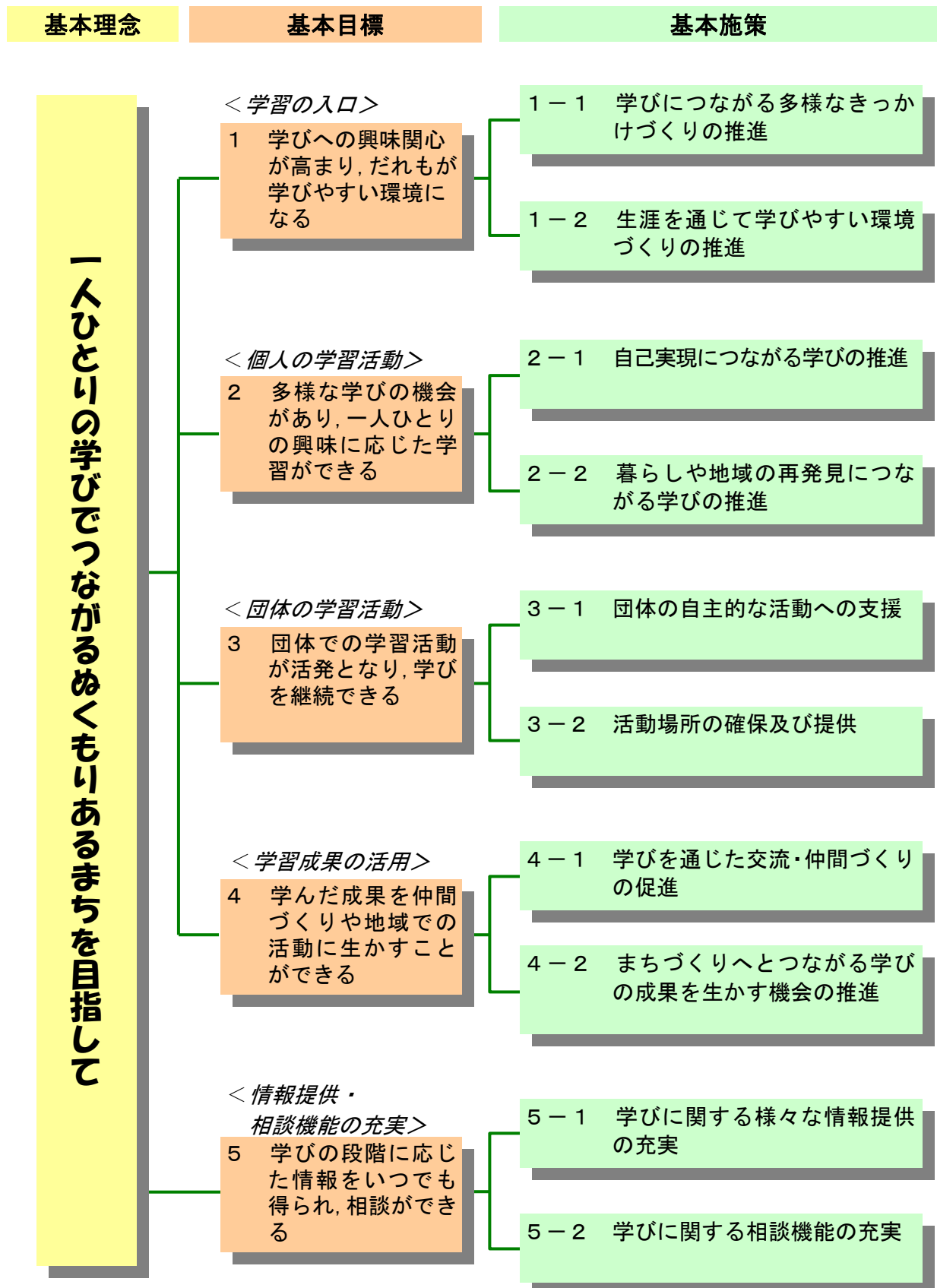
なお、社会情勢の変化や施策の動向を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行います。



## 計画の基本理念と基本目標の相関図



# 施策の体系図



## 基本目標・基本施策

基本理念を実現するため、様々な生涯学習の段階に対応した5つの基本目標と基本施策を設定しました。

### 基本目標1 学びへの興味関心が高まり、だれもが学びやすい環境になる

市民一人ひとりが学習に対する意欲を持てるよう、様々な機会をとらえたきっかけづくりや意識啓発に努めるとともに、子ども、青少年、成人、高齢者、障害者、外国籍市民など、だれもが、いつでも、どこでも学習できる環境づくりを進めます。

特に、普段、仕事や家事・育児などで忙しい方々でも学習しやすい環境づくりを進めるなど、学習を始めやすい環境づくりを推進します。

#### ■生涯学習振興のための指標

指標	現状値	目標値
この1年くらいの間に、生涯学習をした人の割合	39.0% (平成24年度)	50% (平成34年度)

#### 【基本施策】

##### 1-1 学びにつながる多様なきっかけづくりの推進

市民一人ひとりの学習に関する興味関心を高め、学習活動の実践へとつながるよう、生涯学習の普及啓発や、きっかけづくりとなるイベントの実施など多様なきっかけづくりに努めます。

##### 1-2 生涯を通じて学びやすい環境づくりの推進

子ども、青少年、成人、高齢者、障害者、外国籍市民など、だれもが、いつでも、どこでも、学習できる環境づくりを推進します。



サークル体験  
(ハッピーダンス健康体操教室)



地域デビュー歓迎会  
(ふれあいトーク)

## 基本目標 2 多様な学びの機会があり、一人ひとりの興味に応じた学習ができる

公民館や図書館、博物館などを利用した学習機会の充実を図ることで、市民のニーズに対応した多種多様な学習機会の提供に努め、市民一人ひとりの学びを通じた自己実現を支援します。

さらに、文化・芸術・健康・スポーツなど生きがいにつながる学習、地域での安全・安心を高める学習、豊かな暮らしを実現するための学習、調布市のことをより深く知るための学習などの機会の拡充に努め、生きがいにつながる学習を推進します。

### ■生涯学習振興のための指標

指標	現状値	目標値
生涯学習を月1回以上取り組んでいる人の割合	22.0% (平成24年度)	30% (平成34年度)

### 【基本施策】

#### 2-1 自己実現につながる学びの推進

多様化する市民の学習ニーズに対応するため、市民の身近な学習の場として活用されている公民館、図書館、博物館等における市民の学習機会の推進を図るとともに、文化・芸術や健康・スポーツ、職能教育などにつながる学習機会の充実に努めます。

#### 2-2 暮らしや地域の再発見につながる学びの推進

生活に必要な知識や技能を修得できる多様な学習機会、平和や人権の尊重、男女共同参画の学習機会の提供とともに、学習活動をまちづくりへと発展していくことができるような地域の個性を生かした学習機会の展開に努めます。



### 基本目標 3 団体での学習活動が活発となり、学びを継続できる

団体が自主的な活動を通じて存続・発展することは、市民の多様な学習機会の確保につながるのと同時に、結果的に学習の継続や市民同士の交流にもつながることから、団体の自主的な学習活動に対する支援の充実を図ります。

また、教育機関等との連携や市内の既存施設の有効活用により活動場所を提供するなどの支援を通じて、団体活動を活性化し、市民の学習の継続を推進します。

#### ■生涯学習振興のための指標

指標	現状値	目標値
会員数が現状維持又は増加している団体の割合	81.1%※ (平成 24 年度)	85% (平成 34 年度)

※平成 24 年 12 月 1 日～平成 25 年 3 月 22 日現在の調査結果

#### 【基本施策】

##### 3-1 団体の自主的な活動への支援

市民の学習機会を提供するとともに、学習活動を継続していく礎となる生涯学習に関連する団体・グループの自主的な学習活動や、団体の活動内容充実のための支援を行います。

##### 3-2 活動場所の確保及び提供

市民が学習活動を行うことができる場所の確保を支援するため、既存施設の適切な維持整備や、市内にある学習関連施設の有効活用を図るとともに、学校施設の開放やスポーツ施設などの提供に努めます。



サークル活動  
(深大寺走友会)



サークル活動  
(調布ハーモニカサークル四季)



サークル活動  
(中国源流気功・太極拳協会)

## 基本目標 4 学んだ成果を仲間づくりや地域での活動に生かすことができる

学習成果を発表する機会の確保や、世代間や団体間、地域間での交流を育むことで、多様な人と人とのつながりを促進し、地域での仲間づくりを進めます。

さらに、市民が学習を通じて身につけた知識・技能・経験などの成果をまちづくりに生かす機会を拡充します。

特に、人と活動をつなぐコーディネート機能の充実を図ることで学習成果の還元をしやすくし、地域での様々な活動につなげます。

### ■生涯学習振興のための指標

指標	現状値	目標値
学習の成果を自分以外のために生かしている人の割合	20.1% (平成 24 年度)	30% (平成 34 年度)

#### 【基本施策】

##### 4-1 学びを通じた交流・仲間づくりの促進

市民の学習意欲の向上や学習を通じた交流を促進するため、学習活動の様々な成果に関する発表機会の充実を図るとともに、子どもから高齢者まで多様な世代の学習活動を通じた交流、団体間の交流、姉妹都市交流をはじめとする多様な地域間交流を支援します。

##### 4-2 まちづくりへとつながる学びの成果を生かす機会の推進

市民の学習成果がまちづくりに生かされるように、様々な市民が主体となるまちづくり活動を支援し、地域活動における学習の成果をまちづくりにつなげます。その際、地域の大学との連携や、学習活動の様々な場面で人や場をつなぐコーディネート機能の強化を図ります。





## 基本目標5 学びの段階に応じた情報をいつでも得られ、相談ができる

学習について興味関心を持ち始めた段階、講座や教室、団体・サークルなどの学習情報を探している段階、学習成果を他者のために生かす段階など、基本目標1から4までの生涯学習の様々な段階で学習者や団体をサポートする情報提供と相談機能の強化を図り、市民の学習活動を総合的に支援します。

### ■生涯学習振興のための指標

指標	現状値	目標値
生涯学習情報システムのアクセス数	61,467件 (平成23年度)	80,000件 (平成34年度)

### 【基本施策】

#### 5-1 学びに関する様々な情報提供の充実

市民の生涯学習活動を支援するため、学習活動の様々な場面に応じて適切な情報を提供・発信します。また、大学や民間の教室などの情報や施設情報等、活動に当たって必要となる情報などの収集・提供を行います。

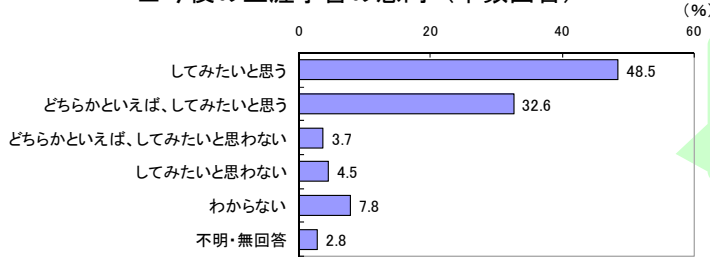
#### 5-2 学びに関する相談機能の充実

生涯学習に関するニーズは、それぞれのライフステージや学習の段階、活動内容などに応じ多種多様なものであり、相談の内容も幅広いものです。それらの様々なニーズに応じた相談機能の整備に努めます。



# 生涯学習をめぐる現状と課題

■今後の生涯学習の意向（単数回答）

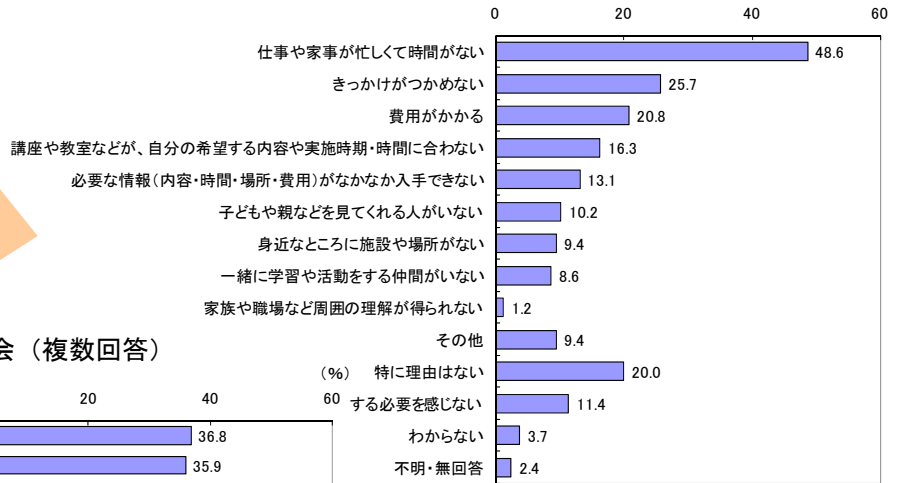


【生涯学習のきっかけづくり】

- 今後生涯学習を『してみたい』人が8割以上と多い。
- 【対応の方向性】
- ◆ 生涯学習に対する興味関心を高めるためのきっかけづくり

■この1年くらい生涯学習をしていない理由

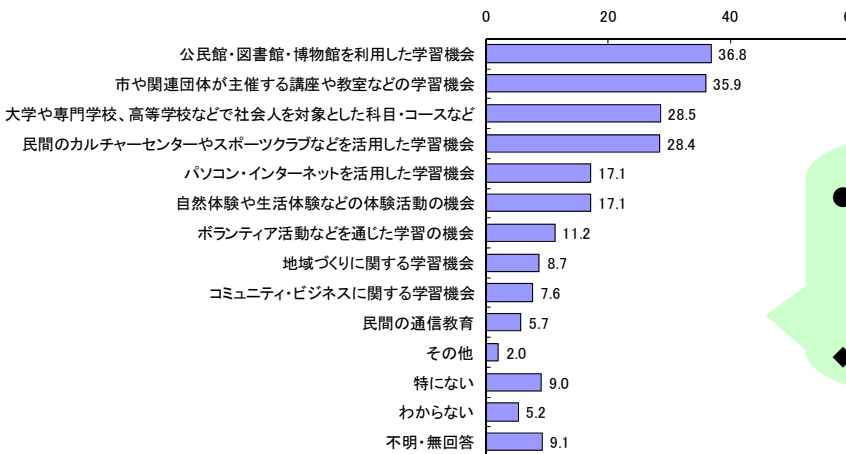
（複数回答） (%)



【学びやすい環境】

- 生涯学習をしていない理由は、「仕事や家事が忙しくて時間がない」、「きっかけがつかめない」、「費用がかかる」、「講座や教室の参加可能な時期・時間が合わない」などが多い。
- 【対応の方向性】
- ◆ 個々の状況に応じた学びやすい環境づくりの促進

■今後増えてほしい学習機会（複数回答）



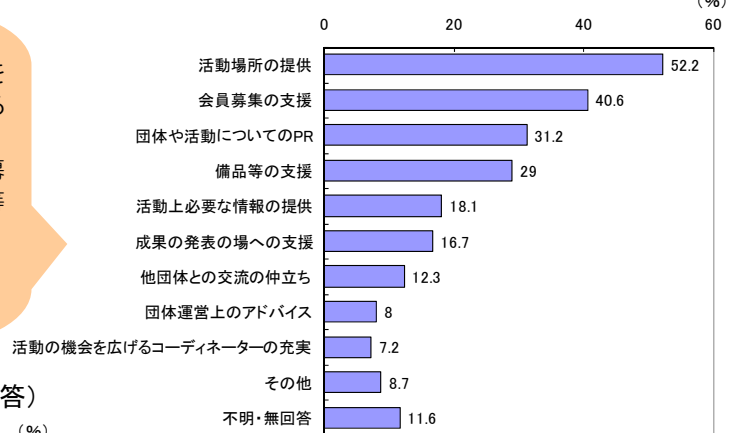
【学習機会】

- 増加を望む学習機会は、「公民館・図書館・博物館を利用した学習機会」、「市や関連団体が主催する講座や教室などの学習機会」のほか、大学や民間のカルチャーセンターなどの学習機会が多い。
- 【対応の方向性】
- ◆ 多様な生涯学習機会の充実

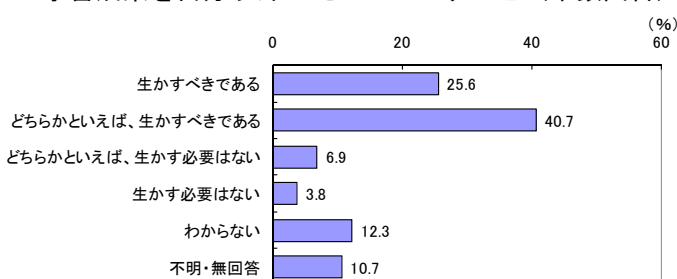
【団体活動への支援】

- 市内には、サークルや市民活動団体など 1,000 を超える生涯学習関連団体が存在し、学習の場であるとともに、学習の成果を生かす場ともなっている。
- 市に望む支援内容は、「活動場所の提供」、「会員募集の支援」、「団体や活動についてのPR」、「備品等の支援」などが多い。
- 【対応の方向性】
- ◆ 団体の自主的な活動支援の充実

■活動上、市に望むこと（複数回答）



■学習成果を自分以外のために生かすこと（単数回答）



【学習成果の生かし方①】

- 学習の成果を自分以外のために『生かすべきである』と考えている人が6割以上。
- 【対応の方向性】
- ◆ 学習成果を社会で活用しやすい取組の工夫
- ◆ 人材と活動をつなぐ機能づくり

平成 23 (2011) 年に実施した「調布市生涯学習振興計画策定に向けたアンケート調査」結果等に基づいて、現状と課題を整理しました。

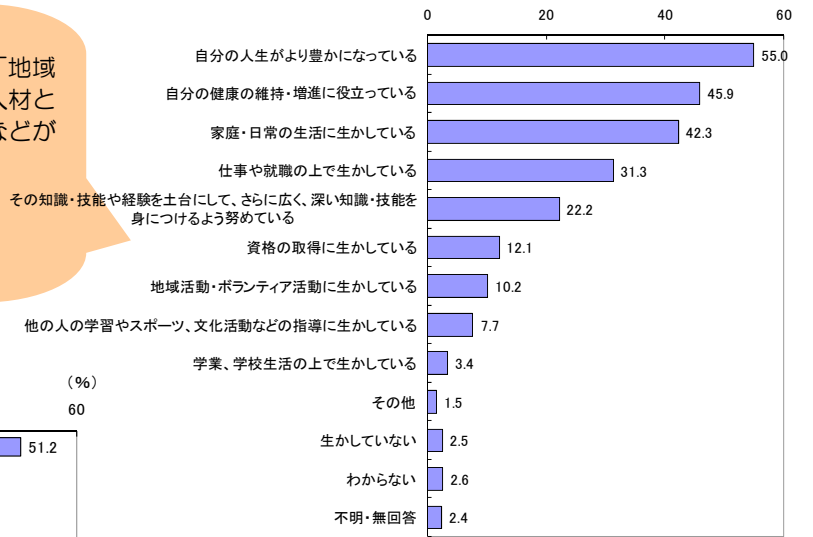
**【学習成果の生かし方②】**

●自分以外のために学習成果を生かすために、「地域活動・ボランティアの情報提供の充実」や「人材と活動の場をつなぐコーディネーターの充実」などが必要であるとの回答が多い。

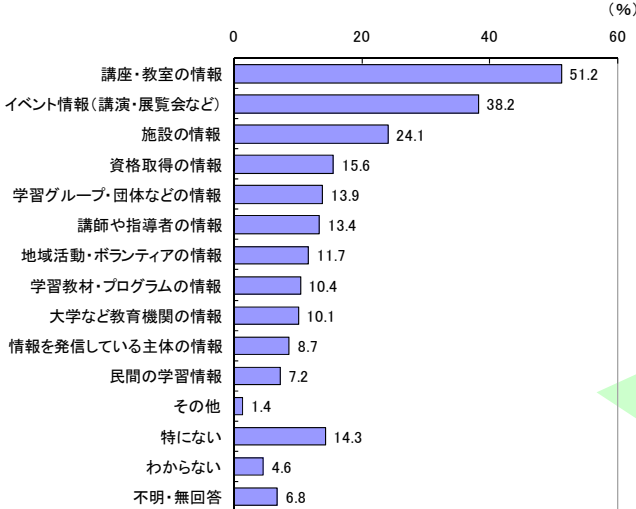
**【対応の方向性 (再掲)】**

- ◆学習成果を社会で活用しやすい取組の工夫
- ◆人材と活動をつなぐ機能づくり

**■現在の学習成果の生かし方 (複数回答) (%)**



**■望まれる生涯学習情報 (複数回答) (%)**



**【生涯学習に関する情報提供や相談①】**

●市民が望む生涯学習情報は、「講座・教室の情報」、「イベント情報 (講演・展覧会など)」、「施設の情報」などのニーズが高い。

**【対応の方向性】**

- ◆生涯学習に関する情報提供や相談機能の充実

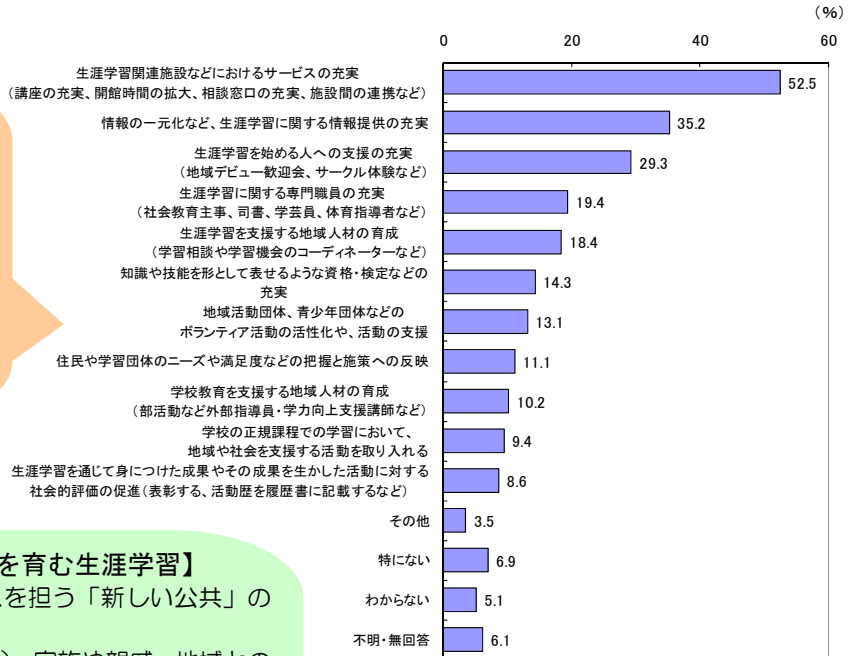
**■生涯学習を盛んにするために市が今後、力を入れるべきこと (複数回答) (%)**

**【生涯学習に関する情報提供や相談②】**

●市が今後、力を入れるべきこととしては、「生涯学習関連施設などにおけるサービスの充実」、「情報の一元化など、生涯学習に関する情報提供の充実」、「生涯学習を始める人への支援の充実」が多い。

**【対応の方向性 (再掲)】**

- ◆生涯学習に関する情報提供や相談機能の充実



**【共助・助け合いなど人とのつながりを育む生涯学習】**

- 地域において市民が様々な公共サービスを担う「新しい公共」の動きもみられ始めている。
- 東日本大震災後 (平成 23 年 3 月 11 日)、家族や親戚、地域とのつながり、社会全体での助け合いが大切と思う人が増えている。
- 調布市でも、東日本大震災の避難場所となった味の素スタジアムで、地元自治会や大学、その他支援団体、市民ボランティアなどが様々な支援活動を行うなど、つながりや助け合いの機運が高まりつつある。

**【対応の方向性】**

- ◆人とのつながりを大切にすることを基本とした生涯学習

## 「生涯学習とは」

生涯学習とは、人々が自己の充実や啓発及び生活の向上のために、必要に応じて自分に適した手段・方法で、自発的意思に基づいて、生涯を通じて行う学習のことです。

これらの学習には、学校や社会教育施設などで行われるものだけでなく、職場・地域・家庭での学習、さらには文化活動、スポーツ・レクリエーション・趣味活動、ボランティア活動など生活のあらゆる場面で行われる学習が含まれます。

その実施形態も、地方自治体や大学などの講座等、民間のカルチャーセンターやスポーツクラブの教室等、企業内教育、自主的学習サークルなどがあり、さらには自己学習まで多様です。

このように、生涯学習の範囲は非常に幅の広いものですが、その根底に共通しているのは“自発的意思により主体的に行う活動である”という点です。

また、教育基本法第3条では、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」と「生涯学習の理念」を定めています。

生涯学習は、「自己の人格を磨き、豊かな人生を送る」ことが目指しているように、いわば“個人を高める”活動であるということが出来ます。しかし一方で、“その学習の成果を適切に生かす”ことも求められており、学習の成果が地域に生かされる、あるいはお互いに学びあうことによってコミュニティの形成が促され、結果として地域全体が活性化する“地域を高める”活動としての側面も持っています。



登録番号 (刊行物番号)
-----------------

2012-277
----------

### 調布市生涯学習振興プラン概要版（平成 25 年 3 月）

編集・発行：調布市 生活文化スポーツ部 生涯学習交流推進課  
〒182-0026 調布市小島町 2-33-1 調布市文化会館たづくり 11 階  
TEL 042-441-6112 FAX 042-441-6115  
E-mail skouryu@w2.city.chofu.tokyo.jp